

今日6月16日、由良野の桑の実が熟れはじめました。由良野川の方ではアカショウビンの「キロロロ」という鳴き声がしています。アザミには蝶がたくさん集まり、スイカズラの甘い香りに「又この季節がやって来た」と感動をおぼえます。

6月1日、午前中の会員交流お餅つきは、晴天の中全員参加でにぎやかに行われ、つきたてお餅をほおばりました。今年で3度目のゆらの総会も行われました。残念ながら清水代表は出席できませんでしたが、文章を寄せてもらいましたので、3ページ目に紹介します。

2008年春から初夏の活動

4月6日 第21回子ども森林博士号講座（しいたけの菌入れ）

冬の間共生林の雑木山から切り出していたコナラの木に、シイタケの菌を打ち込みます。まず、大人が駒菌専用の錐をドリルに付け、どんどん穴を開けていきます。次に丸太をどんどん運び、子ども博士たちが金槌・木槌を使い、上手に打ち込んでいきます。今回分の収穫はしばらく後ですが、2年前につくったものは、この春たくさん収穫できました。しいたけ嫌いの子供たちも、原木しいたけをバター炒めにする、大皿に盛ったものがあつという間に無くなります。



4月13日 第3回大人のための森林講座（小田深山の自然観察）



共生林担当の山本栄治さんにガイドしていただき、春の小田深山に行きました。沢山のカタクリの花に感動し、山野草のきれいな花に参加者みんなで見入りました。真ん中の写真はミソサザイの巣。少し歩いてガイドしてもらうたび、森の営みを、この深山の自然を愛している山本栄治さんがデザインする由良野の森共生林が、ますます楽しみになってきました。

5月11日 第22回こども森林博士号講座（拡大鏡で覗いてみよう）

由良野の春を拡大鏡で覗いて見ました。まずは春探しから。袋に春を詰め込みながら、講師の山本栄治さんが「あれ！」と思うような不思議を知らせてくれます。この時期このタイミングでないと発見できない、しかも普段は全く気付かないような現象です。こども博士と一緒に参加の大人は、新しい発見・体験に感動の連続。ゲストハウスに持ち帰った春を、みんなで交代に覗きます。神秘の世界に「うわー！」という声が上がリ、自分の番には胸が高鳴ります。



6月1日 会員親睦お餅つき

ごらんの通り青空の中、「暑い」「熱い」と言いながらの餅つきでした。餅つきは年の暮れの寒い時期にするイメージがあり、何回か杵を振るととにかく暑いのです。それでも今回6臼をつき、後はみんなでおいしくいただきました。何時やっても、何度やっても、みんなで餅つきはいいものです。



こどもたちは、おなか一杯食べた後急いで池の中に・・・



・・・

6月1日 由良野でお話を聞く会

総会の後、ゆらの会員でもある福井一恵さんに朗読をして頂きました。「天使の飼い方」「はっばのフレディー」の2つの絵本と、宮沢賢治の未完の詩「生徒諸君に寄せる」をお話していただきました。今まで、朗読は読み聞かせみたいなものと思っていました。しかし今回の朗読を聞いて、「言葉を声に変えて人に伝える」と言うことは、こういう事なんだと改めて感じました。説明が出来ないのですが、一緒に参加された方は分かっていただけだと思います。朗読の後福井さんの提案で「夏はきぬ」という唱歌をみんなで歌いました。6月の由良野の森は、うの花が咲き、ホトトギスはさえずり、緑がまぶしい季節です。この歌は明治の初めにつくられたとのこと。100年前の空気がよみがえります。



由良野の森とは

最近「由良野の森って何している所なの？」と聞かれることがよくあります。そこで、ゆらの代表清水秀明氏に「由良野の森とは」説明をいただきました。下記に紹介します。

由良野の森

「ゆらの」代表 清水秀明

由良野の森で活動を始めて五年がたちました。今年は、これまでの活動を振り返り、由良野の森の意義を再確認し、新たな一步を踏み出す糧としたいと思い、本を出版する予定です。正式な「ゆらの」としての活動は三年余ですが、本当にもう随分時間が経ったような気がします。

由良野の森は、自然と人の相互依存、共生関係を自覚した上に成り立っています。分かりやすく言えば、里山とそこで暮らす人の調和したあり方を目指しています。この五年間に、広葉樹を中心とした植林活動及びスギ・ヒノキを含む由良野の森の整備、また、「こども森林博士号講座」に代表される体験学習活動を、共生林担当の山本栄治さんがされてきました。そして、由良野の森で自然と共生した生活をし、さまざまな人たちとの出会いの場を提供してきた鷲野宏さん陽子さん夫婦の活動があります。更に、由良野の森での活動を多くの方々支えて来ていただきました。

なによりも、ここ由良野の森は体験の場です。まず由良野の森を歩いて下さい。雑木林の上まで、山本栄治さんが道をつけてくれています。自然を肌で感じ、そして由良野の森で住み生活している鷲野さんたちと語り合い、彼らのやっていることに触れ、一緒に体験して欲しいと思います。ここを訪れる者同士の語り合いも良いでしょうし、行事への参加も楽しいと思います。子供さんたちには、「こども森林博士号講座」がお勧めです。

とにかく先ず自然と触れ合うことで、自然のありよういかに人が関わっているか実感できると思います。

由良野の森で今やっていること・試みていること

ゆらの通信では、主に「ゆらの」の会で行ってきたことや、由良野の森での出来事を紹介してきました。今回は、由良野の森に暮らしている管理人がやっていることや、試していることを箇条書きで紹介させていただきます。

由良野の森内にある古い建物を、杉・檜を利用して機織工房に改修中
高機を使った機織
植物染料を使った染め
植物染料 藍・紫草・茜・キハダなどの栽培
オーガニックコットンの布ナブキン作り
養蚕（1年に一度）
絹・葛・苧麻の糸作り
ニワトリの放し飼い
陸稲栽培・自家用の畑
さとう楓の栽培実験（メープルシロップの原料）
備長炭を利用した浄水システムとエレン水
リボス社の自然健康塗料と高性能断熱塗料ガイナの利用
薪ストーブを主とした暖房
薪のボイラーと風呂釜
養蜂（日本ミツバチ）
山の恵いろいろ採取・保存食作りなど
などなど

由良野の森にぜひお越しください、一緒に楽しみましょう。

今後の企画

由良野の森において下記の企画が決定しています。詳細は追ってお知らせします。

8月7日（木）午後

イラクの戦争から戻った アッシュ・ウールソンさん（26歳）との交流会。
平和について、イラクで今何が起きているのか、アメリカの若者は・・・？など
四国は初めてのアッシュさん、通訳の方もこられます。子どもさんの参加も歓迎。

8月10日（日）

恒例のうどん打ち体験。今年も松山市衣山の「うどん坊」さんのご協力で実現します。
お楽しみに。

10月12日（土）夕刻より

アラスカフォトライブ。松山市出身の写真家 松本紀夫さんによるフォトライブです。
会員の皆様にはチケット先行販売の予定です。

ふじみね元気村“家の野菜セット”のご案内

由良野の森は久万高原町の父二峰地区にあります。管理人夫婦も参加している「ふじみね元気村」は、昨年会員の方の要望もあり音楽会などのイベントにあわせて、地元農家の野菜市をおこなってきました。それは全て出荷用のものではなく、自家消費用に育てたものばかりでした。おいしい上に安心安全と好評で、提供してくれた農家も「良心の満足」が得られました。

そこで今年、「ふじみね元気村」が新たに企画した“家の野菜セット”をゆらの会員の方を中心に**10名限定**で提供してくれることになりました。6月1日の総会にて、ゆらの通信と一緒に案内書の同封の承認を得ました。どうぞご利用下さい。

総会報告

別紙にて総会の報告（会計報告を含む）を添付します。出席できなかった皆様、ご確認下さい。

事務局より

初夏の森は、むせかえるように多様な緑が、様々な香りの花が、たくさんの命をささえて共存しています。その勢いは強烈で、人為的につくったものを一気に呑み込みそうに感じます。草刈り機を持つ手だけは秋を待ち望みます。

さて、由良野の森は今年で5年目になります。ゆらのの会員も増え、今年はゲストハウスの利用人数も予約も一気に増えました。ゲストハウス1階部分は、会員がいつでも共有できることが原則になっています。利用される皆さん、お連れの方にもそのことを充分理解していただき、由良野の森での縁・出会いを大切にしていきましょう。